

からみてもまぎれもなく行政学の分野に属するものである。しかし、同時にタイの政治的文化に関する研究であり、かかる視点からみてもきわめてすぐれた業績である。
(福島徳寿郎)

Joseph B. Kingsbury and Robert F. Wilcox: *Introduction to the Principles of Public Administration in Thailand*. Institute of Public Administration, Thammasat University, Bangkok, 1961. 122pp.

タイ国政治の研究者として著名なウィルソン教授は、タイの政治を理解するためにもっとも基本的なことは、この国の統治構造における行政機構の地位と役割を正しく認識することであり、それは事実上「権力問題」に先行する重要な問題である、と指摘している。事実、タイの官僚機構は、伝統的に、権力斗争に対してはつねに中立性を保ちながら、しかも機能的な独立性と組織的な統一性を維持してきており、政治指導者のひんばんな交替にもかかわらず行政の一貫性が確保されてきたのは、官僚機構のこのような特性と役割に負うところが大きい、ということはいさしは指摘されているところである。かかる重要性にもかかわらず、タイ国行政に関する文献は、若干のモノグラフィーを除いて、わが国にはあまり紹介されていないように思われる。

本書は、表題からも判るように、タマサート大学行政研究所に客員教授として招聘された二人の行政学者が、テキスト用にまとめたまったくの入門書である。従って、本書に、各論点についての詳細な叙述分析を期待することはできないが、しかし一応行政の全側面が要領よくまとめられており、タイ国行政の全貌を把握するためには便利な概論書であるといえよう。122ページの薄い本ではあるが、二段組みになっているので、ページ数のわりには取り扱われている問題は多岐にわたっている。

本書は15章に細分化されているが、大別すれば四つの部分——行政および行政学に関する総論的叙述(第1～2章)、タイ国行政発展の略史(第3章)、各論的諸問題の分析(第4～14章)、およびタイ国行政の評価(第15章)から構成されている。各論的部分においては、行政の組織、管理、人事行政、財務行政、行政に対するコントロール、行政責任の問題が扱われてい

る。全体として、行政学の最近の理論的成果を集約しながら、それに照らしてタイ国行政の特質と問題点を明らかにするという叙述形式がとられている。

著者達がタイ国行政のもっとも重大な欠陥として強調している問題は、行政の政治的、道徳的な無責任性と非能率性である。政治的無責任性の克服のためには、政党の育成と自由な選挙の実施なかんづく利益集団その他の自発的な市民組織の発展の必要性を指摘し、道徳的無責任すなわち腐敗の克服のためにもっとも基本的なことは、タイ官僚の行動様式にみられる伝統的な「人への忠誠」を克服して職務そのものに対する忠誠心を培うことである、としている。またタイ国行政にみられる非能率性の原因としては、組織上の欠陥とくに行政諸機関の無計画的な肥大増殖、過度の中央集権化、権限の分配にみられる諸欠陥、行政政策にみられる計画性の欠如、形式主義と法規万能主義をあげている。

はじめに述べたように、本書はまったくの入門書である。しかし、わが国ではタイ国行政の研究にはまだ全然手がつけられていないのが実情であるので、今後の研究のための手掛りの一つとして紹介することにした。
(福島徳寿郎)

The Mrabri: Studies in the Field (The Journal of the Siam Society, Vol. LI Pt. 2). Bangkok, 1963. 68p. (= pp. 133-201) with lists and photos.

Mrabri は一般に“Phi Tong Luang”の名でよく知られたタイ国北部の放浪民で、その primitive な生活のため色々な関心が抱かれながら、少数であることと elusive な放浪のために接近が容易でなく詳しい実態はよく知られていない。The Siam Society Research Centre では1962年8月の第1回調査に次いで1963年1月末に再び Kraisri Nimmanahaeminda 氏をヘッドに第2回目の Mrabri 調査を Amphur Na Noi (C. Nan) の山中で行なった。本書は、JSS の1号をこの第2回調査の報告に特集号として割当てたものである。

内容は5篇の論文からなっている。すなわち、(1) J. J. Boeles 氏の、この調査のあらましと material culture を主とした文化人類学的な報告、(2) 西独 Bonn から参加した Dr. G. Flatz の形質人類学的報告、